

amnesty international

アムネスティ・インターナショナル

サウジアラビア

政治的容疑者の裁判なしの拘留

1990年1月11日



アムネスティ・インターナショナル

サウジアラビア

政治的容疑者の裁判なしの拘留

1990年1月

概 要

AI Index: MDE 23/04/89

政治的反対者容疑者を裁判にかけることもなく拘留することがサウジアラビアに対して重大な関心が寄せられる原因となっている。

容疑をかけられた政治的反対者たちが令状なしに逮捕され、裁判にかけられることもなく長い間：ときどき2年以上：拘留されたままということが通常のことであることが明らかになった。最初の2～3日あるいは2～3週間、逮捕者たちは通常独房に入れられ、おきまりの拷問と虐待を受け、家族あるいは弁護士に接することを許されない。サウジアラビアにおける逮捕また拘留を規定している現行法は、逮捕された政治的逮捕者たちが何故逮捕されたかその理由を速やかに知らせること、あるいはそれ以上拘留することに対して積極的に法的機関あるいはそのほかの当局に訴える権利が与えられているかどうか極めてあいまいである。

アムネスティ・インターナショナルは裁判なしに拘留することは基本的人権を犯すものであると指摘して当局にこの問題を提起したが何らの返答に接していない。最近受けた情報では政府の政治的反対者たちは裁判を受けることなく拘留されていることを示している。それらの66件の姓名と詳細は付属A B CおよびDに掲載されている。付属Eは拘留者たちのある者たちの写真をも載せている。

これらは1990年1月にアムネスティ・インターナショナルによって発行された「サウジアラビア：政治的容疑者たちの裁判なしの拘留」(AI index MDE 23/04/89)という27ページにおよぶ文書にまとめられている。この問題についてさらに詳細を知りたい人あるいは何らかの行動をとろうとする人は文書の全文に読むべきである。

目 次

項 目	ページ
1. はじめに	1
2. 裁判なしの拘留：法的視点	3
3. 裁判なしの拘留：実情	5
3. 1 背 景	5
3. 1. 1 サウジアラビアにおけるシーア派	6
3. 2 <u>ムナダマト アル・サウラ アル・イスラミーヤ フィル ジャチーラ</u> <u>アル・アラビーヤ</u> (アラビア半島におけるイスラーム革命組織：OIRAP) のメンバーあるいは支持者とされる者	7
3. 3 <u>ヒズブラー フィル ヒジャズ</u> (ヒジャズにおける神の党：PGH) の メンバーあるいは支持者とされる者たち	8
3. 4 <u>ヒズブル アマル アル・イシュティラク アル・アラビ アル・ジャチーラ</u> <u>アル・アラビーヤ</u> (アラビア半島：アラブ社会主義行動党：ASAP-AP) の メンバーあるいは支持者とされる者たち	9
3. 5 そのほかの拘留	9
4. 結論と勧告	11
5. 付属	
A: <u>ムナダマト アル・サウラ アル・イスラミーヤ フィル ジャチーラ アル・アラビーヤ</u> (アラビア半島におけるイスラーム革命団体) のメンバーあるいは支持者とみなされ、 現在アル・ダムмамに拘留されていると思われる25名の氏名および資料	12
B: 現在リヤードとアル・イフサに拘留されていると考えられる20名の <u>ヒズブラー フィル</u> <u>ヒジャーズ</u> (ヒジャーズにおけるヒズブラ) の会員および支持者とされる者の氏名および資料	16
C: 現在アル・ダムмамに拘留されていると思われる <u>ヒズブル アマル アル・イシュティラク</u> <u>アル・ジャチーラ アル・アラビーヤ</u> (アラビア半島におけるアラブ社会主義者行動党) の メンバーあるいは支持者とみなされる5名の者たちの氏名および資料	18
D: どの団体に属するか不明ではあるが、現在リヤード、アル・ダムмамおよびアル・イフサに 拘留されていると思われる16名の政治的反対容疑者たちの氏名および資料	19
E: 写 真	21
1. シェイク アリー アブドル・カリーム アル・アウァ	
2. イブラヒム マハディ ザ' イド	
3. ジャ' フェール バケル アル・ニムル	
4. ハッサン 'アリー アル・ディルラ	
5. ユスフ フセイン ジャワド アル・リベフ	
6. アリー ザ' イド ダルウィシュ	
7. アリー アブドラー 'アシュール	
8. タヒル シャミミ	
9. ムハムマド ヒラール クァシム アル・セウド	
10. アリー ムハムマド フセイン アル・ライル	
11. アダム 'アリー アル・ウクァイリ	
12. アフマド アリー アブドラー ヒシャイキス	
13. タイシル バケル アル・ニムル	

1990年1月11日

サウジアラビア： 政治的反対容疑者の公判なしの拘留

1. はじめに

サウジアラビアにおいて最近「良心の囚人」を含めて何百という政治的反対容疑者が逮捕され、裁判にかけられることなく拘留されている。そのほとんどは東部出身のシーア派ムスリムである。1989年だけでも少なくとも100名にのぼるそのような拘留者があった。

サウジアラビアにおいては政党および労働組合は禁止されている。何年にもわたって反対グループに属しているあるいは支持しているとの容疑者が「アル・マバヒト・アル・アンマ」(公安部)によって逮捕されるのが日常茶飯事となった。これらのグループの中にはアル・イクワン(兄弟たち)、ムナダマド アル・サウラ アル・イスラミヤ フィル・ジャジラ アル・アラビア(アラビア半島におけるイスラム革命組織)、アル・ヒズブル シウ'イ フィル サウテヤ(サウジアラビア共産党)、ヒズブル アマル アル・イシュティラキ アル・アラビ アル・ジャジーラ アル・アラビア(アラビア半島、アラブ社会主義行動党)、ヒズブラ フィル ヒジャズ(ヒジャズ神の党)を含んでいる。アムネスティ・インターナショナルが知る限り、すべての場合政治的拘留者たちは逮捕の理由を告げられず、公判なしに延期されて拘留され、ある場合には2年以上におよぶ。最初の2~3日あるいは2~3週間は拘留者たちは独房に入れられ、お定まりの擲詞あるいは虐待を受け、家族および法的相談相手に接することを拒否される。全般的に家族との面会は尋問が終わり、拘留者たちが共同の房に移された後に許される。

1982年、アムネスティ・インターナショナルは120以上の裁判にかけられない政治的拘留者たちを知ったが、その幾つかは良心の囚人たちであったのではないかと心配している。それらの拘留者たちの中にはリヤド大学の社会学部の講師であったファウジア アル・バクル、「アル・ヤウム」新聞の編集長サリーフ アル・アザーズ(第3、4部参照)、そのほかかなりのジャーナリスト、教師および学生たちがいた。

1983年の間にアムネスティ・インターナショナルは170名以上の裁判を受けない政治的拘留者たちの氏名を知るに至った。それらの中には42才になるパレスティナ学校教師であり、パレスティナ婦人全体会議の実行委員会委員のウィダード アル・クマリ 'アブドル ムン'イムがいた。

1984年の8月から12月の間に政党を結成しようとしたという理由で62名が拘留された。

1985年、100名以上の政府の政治的反对者と見成された者たちが逮捕され、裁判にかけられることなく拘留された。逮捕のほとんどがアシュラの日（ムハラム10日：9月25日）に起こり、その時予言者ムハムマド（3, 1, 1参照）の孫であるイマーム・フセインの死を記念する行進の参加者たちが、裁判をかけられることなく拘留されている政治的囚人たちの釈放のためにデモをした。デモは「暴動警察」と「国家警備隊に」よって中止させられ、その後多くが逮捕された。逮捕のほとんどは東部のサイハト、アル・イフサ、アル・クァティーフ・サファーで起こり、それらの逮捕された者たちは主としてイスラームのシーア派に属する者たちであった。彼等の中には学生、教師、宗教的学者、商人、技術者、医者および石油施設の従業員たちが含まれていた。その中にはハッジ（聖なる巡礼）に参加中に逮捕された32才のサウジアラビアの国際的水泳者であるアラウイ・ムハムマド・マッキがいた。

1986年、140人以上の政治的反对者あるいは政府批判者の容疑をかけられた者たちが裁判なしに拘留された。それらの中には、5月に拘留された夫の所在を発見しようと試みた後7月24日自宅で夜中過ぎに逮捕されたマッキーヤ・ハムダンもいた。彼等のほとんどは大赦の後その年の終わりまでに釈放された。

1987年を通じて、政府に反対していると見成されたシーア派ムスリムが逮捕され、裁判にかけられることなく拘留された。ほとんどの報道はメッカにおけるイラン巡礼隊とサウジアラビア警備隊の衝突の後、東部地域で逮捕が起こったとしている。サウジアラビア当局は公式には如何なる政治的囚人もいないと否定している。

東部地域のジュバイルの石油施設での爆発の後の1988年4月、政府の政治的反对者と考えられた者たちが逮捕され裁判なしに拘留された。すべての者がシーア派ムスリムで東部地域のサイハト、サファー、アル・ラビ'ア、アル・クァティーフ、タルート、セナバスで逮捕された。彼等の中には宗教的学者、教師、学生、技術者たちが含まれていた。彼等の中には文部省に勤めていた26才のナッセル・アブドラー・アル・ユスフ、アル・ラビ'イヤから来たアブドル・カリム・アル・フバイルも含まれていた。ナッセル・アブドラー・アル・ユスフは前に1985年リヤドのキング・サウド大学の学生の時に罪もなく、裁判もなしに拘留され、1986年の終わりに釈放された。

長年にわたってアムネスティ・インターナショナルはサウジアラビア当局に政治的反对容疑者を裁判なしに拘留する問題を、「このような行為は人権宣言に明記されている基本的人権の侵害に連なるものである」と指摘しながら提起した。これらは専断的な逮捕あるいは拘留の対象にされることから保証され、また独立した公平な裁判所により正しく公的に聴取される権利を含む。

この問題についてのどのような提起に対してもサウジアラビアからの返答はない。

2. 裁判なしの拘留：法律的观点

サウジアラビアには刑法も憲法もない。法の主たる源はシャリーア（イスラーム法）であって、その適用は長老であるウラマ（イスラーム学者たち）の評議会に委されている。司法はイスラーム・スンニ派の4学派の1つであるハンバリ学派によって定義されているシャリーアに従って執り行われる。宗教的あるいはシャリア法廷は司法省の管轄の下にある。1970年に司法省が創設されたことは現存の法の成文化に貢献し、法体制の組織的向上に導いた。立法は王の裁可によって勅令あるいは省令による。

1983年11月、“逮捕、一時的監禁および予防的拘留についての法”（ウム、ウル・クラ：1983年11月11日付け官報2988号、24～29ページ）が内務省から発令され、現在も有効であると信じられている。逮捕と拘留の手続きを規定する法がほかにないので、この法令は犯罪的犯行はもちろん政治的容疑者そのほかすべての場合に適用される。

法令の第1条には、公安部は“容疑のあるどの人間……をも”逮捕し拘留する力を与えられている。彼等は拘留者を尋問し、逮捕してから24時間以内にこの件について調査当局に報告しなければならない（第3条）ことになっている。この期間を越える拘留はそれを認めることを書き記した調査当局による許可書がない限り認められない（第5条）。逮捕の3日後に、そして“拘留者が「重大な犯行を犯した」という証拠がある時”は、その者は正式に告発され、彼の拘留に対する令状が発せられ、彼は公的牢獄に移される（第7条および第9条（2a））。重大な犯行の中にはシャリーアの侵犯、火器の売買、火器およびその他の武器が使用される暴動的集まりに参加すること、集団的あるいは部族間の騒動に参加し、公の秩序を守る役人に反抗することが含まれている（第10条）。

拘留は逮捕の日から数えて21日を越えることはできない（第12条）。しかしながら、もしこの期間に必要な調査を終了することができない時は、調査機関は拘留を30日間延期することを地域の政府機関（アル・イマラ）に請求することができる（第13条aおよびb）。拘留者はこの請求に対して反対意見を政府機関に向かって提出することができる（第19および20条）。しかし18条は、地域の首長あるいは彼が地域の高級役人の中から委任する者は誰であれ、容疑者の拘留を30日を越えて、この件の最終的権威当局すなわち内務省によって最後の結論が出されるまで延期させることを可能にしている。もしこの段階で拘留者が釈放されず、公判にも付されない場合には、彼は拘留が延期されたことについて抗議することができる（法令はどのようにしてそれをするかについては明らかにしていない）。政府機関はこの件を調査するために政府の役人である法律専門家と警察の代表によって構成される審査委員会を設置しなければならない（第21条）。法令は拘留者が審査委員会に出頭すべきであるかどうかについては明文化していない。しかし現実には拘留者は一般的に出頭する、しかし法律的相談相手はなく、自分自身で自分の弁護の用意をしなければならない。

アムネスティ・インターナショナルは政治的拘留者の場合は、この法令の条項の多くが適用されていないとみなしている。前に拘留されたことのある人たちから得た証言によれば、政治的容疑者たちは逮捕され、その後どのような罪状（責任）であるかを知らされなかったという。このことは法令第9条（2a）の条項に反し

、国際的法令とくにサウジアラビアは参加してはいない「市民および政治的権利条約（ICCPR）に反する。ICCPR第9条（2）は述べている：

” 何人も逮捕される時には、その逮捕される時にその理由を告げられ、彼に対する罪状が何であるか速やかに知らされなければならない。”

多くの場合、政治的拘留者たちは尋問の前また尋問の期間を通じて独房に入れられ、その期間が6ヶ月を越えることさえある。そのように長い間、彼等はファラクア（足の裏を打つこと）、タス・ヒル（寝させないこと）、ター'リク（手首によって天井あるいは高い窓から吊り下げること）によって拷問にかけられると思われる。たとえば、24才になる宗教的学者であるシェイク ムハマド アル・シレビは1989年3月3日サウジアラビアとヨルダン国境のアル・フダイサという検問所で逮捕され、アル・ダムマンのアル・マバヒト アル・アムマの禁固で3ヶ月間外部との連絡を断たれ、独房の中で拷問にかけられたと報告されている。6月、彼は明らかに拷問の結果と思われるがリヤド中央病院に1週間入院し、その後アル・ダムマンの独房の中の拘留生活に戻された。彼の健康はさらに悪化したと報告されたので、8月アムネ스티・インターナショナルは「彼が明らかかな犯罪行為をもって告発されないならば釈放されるべきである」ことを力説して彼のために訴えた。彼は1989年9月8日、彼は罪状なくして釈放された。

前に拘留されたことのある政治的容疑者はアムネ스티・インターナショナルに「尋問の後、彼等はこの件を担当する尋問者と法律専門家の2人からなる委員会の前に連れ出された」と語った。ある場合には、牢獄長も出席した。この委員会が法令第21条に規定されている”審査委員会”に当るのかどうかアムネ스티・インターナショナルは知らない。政治的拘留者たちは「彼等が”告白状”にサインしない限り、この委員会の前に決して出頭させられなかった」と述べている。委員会は拘留者たちに彼等がサインした告白状の内容を認めるかどうかを尋ねるだけが普通であって、その時限は数分だけであった。そうした者たちは直ちに彼等の房に帰され、その後どのようになるか何も知らされなかったと語った。彼等は前もって何らの告知もなく、それがどのような意味をもち、どのような結果を生むかも一切告げられず、また法律的相談相手を与えられることもなく、委員会の前に連れてこられた。法令の第19～21条の条項に反して、拘留者たちは彼等の拘留の延期あるいは彼等の拘留そのものに対して抗議する権利を有効に行使することを、効果的に妨げられたと感じたと言う。さらにアムネ스티・インターナショナルは、政治的拘留者たちに国際法と一致して、法廷において自分の拘留が合法であるかどうか確かめることを許すサウジアラビア法の法律的规定があるかどうか知らない。これはICCPRの第9（4）条の条項に反する：

” 逮捕あるいは拘留によって自由を奪われる者は、法廷に訴え、自分の拘留が合法的であるかどうかを直ちに決定し、もしその拘留が合法的でないならば釈放を命ずるために手続きを取る権利を与えられる”。

告白状の内容を認めることを拒否し、あるいはそれが拷問によって聞き出されたものであると主張した拘留者たちによれば、彼等は再び独房に戻され、彼等が軟化するまで尋問と拷問を繰り返されたということである

3. 1. 1 サウジアラビアにおけるシーア

シーア派においては信ずる者を指導し、マルジャとしてサービスしてくれる長老的宗教学者（アヤトラ）の一人を選ぶよう要請される。信ずる者の日常の生活から複雑な宗教的政治的問題に至るまでの問題について解説するマルジャの発言は、彼に従う者を拘束する。サウジアラビアのシーアの大多数は3人のマルジャの一人に従う：一人はイラクのシーア派の聖地ナジャフに住んでいて、宗教を政治から分離することを主張するアヤトラ・アブル・クァシム アル・フイーであって、政治的に動くことを好まないサウジアラビアのシーアは大体彼の線に従うようである。ほかの一人はイラクの国籍ではあるが、イランのコムに亡命しているアヤトラ サイドムハムマドアル・シラージである。彼のアイデアはサウジアラビアにおけるシーアの中心的反政府組織であるムナダマト アル・サウラ アル・イスラミーヤ フィル ジャチーラ アル・アラビア（アラビア半島におけるイスラーム革命組織）によって採用されている。それからイラン革命の精神的指導者であるアヤトラ・ホメイニであって、彼に従う者の中のある者はヒズブラ フィル ヒジャズ（ヒジャズにおける神の党）の名の下に活動している。彼等は1987年にイラン巡礼団とメッカにおけるサウジアラビア治安部隊の衝突の結果知られるようになった。

サウジアラビアにおけるシーアの反対は長い間、彼等の共同体のメンバーが2流の市民として扱われ、宗教的差別を受けていると主張してきた。彼等はサウジアラビアを中東における最も豊かな社会の1つとした1970年代半ばの石油ブームもシーアには少しも利益とならず、彼等の地域は少なくとも最初の中は未開発地域として取り残され政府の投資から外されていたと主張してきた。さらにシーアは（西暦680年にイラクのカルバラで殉教した予言者の孫であるイマーム・フセインの死の記念である）アシュラの行進のような、彼等の宗教的行事のあるものを行うことを許されなかった。

1979年におけるイラン革命は世界中のシーアに新しい急進的な覚醒を引き起こした。サウジアラビアにおいてはシーアに対して彼等が明らかに2流の宗教的、経済的地位におかれているという認識を強めることになった。1979年11月東部においてシーアの不満を示す大規模な示威運動が起こった。その月、アル・クァティーフにおける宗教的指導者たちはアシュラの伝統的行進を行うことを強行に主張した。当局がその行進を弾圧しようと試みた時、暴動が起こり、少なくとも17名が殺されたと報道された。直ちにデモは11坊の町や村に広がり、約4ヶ月にわたって断続的につづけられた。

これらの出来ごとにつづいて、新しい政策の一端として、政府はシーア地域の発展のために資金を割り当てた。1984年までに東部地域には王の王子であるムハムマド ビン ファハドを長とする新しい行政組織が確立された。しかしシーアたちは依然宗教的権利を完全に享受しているのではなく、アシュラの行進はサウジアラビアでは依然許されていない。最近の1989年9月24日には東部地域のアル・アワミヤにおいて、アシュラの行進を行おうと試みたというので9名のシーアが逮捕された。その中には19才の学生であるアブドルラヒーム アル・ファラージュおよび29才のサウジARAMCO勤務のアブドル アリー ムーサも含まれている。すべては10月4日に無罪として釈放された。

1987年にアル・ダムマンのアル・マバヒト アル・アムマ年獄の独房に81日拘留されたタルート出身の25才になる政治的反対容疑者の場合がそれにあてはまる。彼はアムネスティ・インターナショナルに語った：“わたしは25日間、間断なく尋問され、反政府的宗教活動を遂行していたと告白するように強制された。翌日の夜遅く、わたしは牢獄の支配人、わたしに質問をしつづけた2人の尋問者、そしてわたしに告白を確認するように求めた第4の人物、これら4人の前にわたしは連れてこられた。わたしはそれらは拷問によってでっち上げられたものであると言って、わたしの身体の跡を示した。彼はわたしに嘘を言っていると言って詰問し、ふたたび尋問されるよう命じた。わたしは再び18日間独房の中に入れられ、そして36日間連続して尋問された。その間わたしはわたしの告白を確認するよう激しく拷問された。わたしは拘留の79日目に再び同じ人たちの前に連れ出され、そこでわたしはわたしの告白を認め、ついでにわたしは拷問されたことはないという陳述も認めさせられた。そして2日後に釈放された”と。

もう1つは1988年7月逮捕され、1988年12月の前半に釈放された22才になるヤシル アリームハマド アル・ファラージュの場合であって、彼はダーレン近くのキング・ファハド空港に働いていた。アムネスティ・インターナショナルの彼の証言によれば、彼がその告白に最後に同意する前に2回別々の場合に委員会の前に連れ出された。そのような行為は「拘留者は自分自身に不利な証言をするよう強制され、あるいは犯罪を告白することを強制されない……」というICCPR第14(3)gに反する。

逮捕の瞬間から「拘留者は自分自身を擁護するための準備のための適当な時と機関また自分の送る相談相手と連絡する」権利を与えられるべきである」というICCPRの第14(3b)の条項に反する。一般的に家族の訪問は尋問が終わり、拘留者たちが共同の房(アル・アンバル)に移された後にのみ許された。

3. 裁判なしの拘留：実情

3.1 背景

サウジアラビア王国は1932年9月、アブドル・アチズ アル・サウド王がアラビア半島の大部分をその支配下においた時に出現した。サウジアラビアの市民は極少数を除きムスリムであって、その大部分はスンニ派である。シーア派の数は王国の人口の10%~15%の間である。彼等は主として石油の豊富な東部に住んでいる、しかし小さなシーア共同体が、アシル、ヒジャズ、そしてメッカおよびメディナという聖なる2つの都市の周辺に見出される。

サウジアラビアにおいては政党も労働組合も禁止されており、新聞の検閲は厳重である。その結果、政府に対する政治的反対は地下にもぐり、度々の弾圧の対象にされてきた。最近「良心の囚人」を含む何百という政治的反対容疑者たちが裁判にかけられることなく拘留された。1989年には少なくとも何百にのぼる禁止された政党のメンバーあるいは支持者たちが告発されることなく、あるいは裁判にかけられることなく拘留された。そのほとんどは東部地域のシーア・ムスリムたちである。

3.4 ヒズブル・アマル アル・イシュティラキ アル・アラビ アル・ジャチーラ

アル・アラビーヤ

(アラビア半島：アラブ社会主義活動党：ASAP-AP)のメンバーあるいは支持者とされる者たち

1989年3月の最後の週に、ASAP-APのメンバーあるいは支持者とされる5名がサファールにおいて1名がリヤドにおいてそれぞれ逮捕された。彼等はアル・ダムマンのマバヒト アル・アムマ刑務所において裁判にかけられることもなく拘留されていた。拘留者の中4名はサウジARAMCOの勤務者であり、ほかの2名は32才になる銀行員 アドイル サルマン・アブドル・ハーディと31才の会社員ムハムマド ハビーブ アル・ユスフである。彼等はすべて尋問前また尋問中、外部との一切の連絡を断たれた。1989年4月12日、アムネスティ・インターナショナルは「彼等に明らかな犯罪を犯した罪状がないならば釈放されるべきである」とことを強調して、内務大臣のナイフ・ビン・アブル・アチズ王子にアピールした。今日までアムネスティは何らの回答を受け取っていない。しかし彼等の一人28才になるサウジARAMCOに勤務していたナジブ サイード アル・ユスフはその後釈放されたことを知った。拘留されている者たちの詳細については付属Cを参照。

ASAP-APは1970年代にバン・アラブ ハラカト アル・クアウミーーン アル・アラブ (アラブ国家主義者運動)の前のサウジのメンバーたちによって結成された。マルクス主義を奉じ、"環境を整えば武装闘争をとらない"とするこの党はインテリゲンチアおよび都会の中流階級の支持を受けている。しかし1982年5月、その100名以上のメンバーと支持者が逮捕されたことにより重大な打撃を受けた。それらの多くは閉鎖されるまで合法的に発行されていた日刊新聞「アル・ヤウム(今日)」と密接な関係をもっていたジャーナリストおよび記者たちであった。1982年の終わりに行われた大赦によって彼等はすべて釈放された：しかし政府機関で働いていた者たちは元の職場に復帰することを許されず、そのほかの者たちは海外へ旅行するためのパスポートを発給することを拒否されたということである。1987年以来、この党はその組織的体制を再建しつつあると言われる。

3.5 その他の拘留

アムネスティ・インターナショナルは、どの反対グループに属するか不明の政府反対容疑者たちが次から次に裁判なしに逮捕あるいは拘留されているという知らせを絶えず受けている。アムネスティ・インターナショナルはそのような16名の者たちが「良心の囚人」であるに違いないと信じている。彼等の詳細は付属D参照。

彼等の中には1989年6月逮捕され、リヤドのウライシャ地域におけるマバヒト アル・アムマ刑務所に拘留されている5名の学生を含む。1989年6月15、16日リヤドのキング・サウド大学の学生 3棟、8棟から出火した。付属Dに詳細が記されている5名を含む多くの学生たちが火を消そうと努め、ある者たちはその消火活動の最中に火傷をして病院に収容された。ところが6月17、19日にそれらの学生たちの中7名が逮捕されたが、彼等はすべて東部出身のシーアたちであった。彼等の中2名：タルート出身のアブドラール スライスとサファール出身のアリー サディークは後に釈放された、彼等はともに20代であった。7月11日、彼等の中の3名が付け火をしたことを自状させられるために拷問に出かけられているという報道を受けたアムネスティ

・インターナショナルは彼等のために緊急アッピールを行った。彼等に不利な明らかな罪状はなく、何人も法律家に連絡することを許されていない。

さらに最近逮捕された者たちの中には1989年7月10日、メッカにおいて逮捕された28才になる宗教的学問を学んでいる学生（神学生）のムハムマド サ'ウド ビン フムダがいる。彼は1986年逮捕され1987年罪状なくして裁判に回されることなく釈放された。ほかの例は7月15日にサウジとヨルダンの国境のフダイタ樹膠所で夫のサリーフ アル・アクバリとともに逮捕された東部地域のアウジャム出身の40才になる主婦ザフラ ハビーブ キンスール アル・ナッセルである。彼女らはシーアにとっては聖なる廟であるサイーダ ザイナブ廟において宗教的行事をおこなってダマスカスから帰るところであった。彼女等を調べている中に警察はザフラ アル・ナッセルの持ち物の中からアヤトラ ホメイニの写真とシーアの祈祷書を発見したということである。彼女は夫とともにフダイタ樹膠所拘留センターに入れられ拷問を受けたということである。彼女は3日後の7月18日に死亡し、拷問の跡のついていたと言われる彼女の遺体は家族に渡された。彼女は7月20日アウジャムに葬られた。彼女の夫はその後釈放された。8月10日アムネスティ・インターナショナルはザフラ アル・ナッセルの死について公に調査を開始するようサウジアラビア政府に申し入れた。何らの回答も寄せられていない。

ダーランのキング・ファハド大学の35才になる講師アフマド ハッサン アル・ムタワはアメリカ合衆国からサウジアラビアに帰国した直後にアル・イフサーで逮捕された。彼はアル・ダムマムに収容されていると思われる。9月25日と29日に5名の政治的反対容疑者がアル・クアティーフとサファーにてそれぞれ逮捕された。彼等の中3名：サウジ航空に勤務する26才のアブドル・カリーム サ'ド カミス、リヤド大学の23才の学生であるムハムマド アフマド アル・サディーク、サファー出身の21才の学生マヒール ハッサン アル・ヒナビは10月4日に罪状なしに釈放された。ほかの2名、タイシール アル・グラブとファーシ アル・グラブは裁判にかけられることもなく拘留されている。詳しくは付属D参照。

3.2 ムナダマト アル・サウラ アル・イスラミーヤ フィル ジャジーラ アル・アラビーヤ (アラビア半島におけるイスラーム革命組織: OIRAP) のメンバーあるいは支持者とされる者

1989年3～9月の間にOIRAPのメンバーあるいは支持者とされた者のすべてが主としてアル・アワミーヤ、アル・ジュ' アイマ、サファー、セナベス、アル・アウジャム、ダーレンといった東部の町で逮捕された。ほかの者たちはリヤドそしてクウェートとヨルダンの国境検問所で逮捕された。彼等は宗教的学者、学生、商人、サウジARAMCOの従業員を含み、年齢は20から30才にわたる。彼等の中には1989年3月22日アル・ジュ' アイマで逮捕されたことのあるサウジ電気会社の26才になる従業員ユスフ フセイン ジャワード アル・リバーがいた。彼は1982～83年の間告発されることなく、また裁判されることなく拘留されていた。1989年7月アムネスティ・インターナショナルは彼等の中の8名が拷問を受け、虐待されているという報道を受けたので重大関心を表明して彼等のために緊急アペールを出した。彼等の中には2人の宗教的学者すなわちサイード タヒル アル・シミミおよびシェイク アリー アブドルカリーム アル・アワが含まれていた。彼等は二人とも1986年に数ヶ月告発されることもなく、裁判にかけられることもなく拘留されていた。

アムネスティ・インターナショナルは1988年7月から10月の間に逮捕され、それ以来アル・ダムマムのマバヒト アル・アムマで裁判にかけられることなく拘留されているほかの4名のOIRAPのメンバーあるいは支持者とされた者たちのケースを知っている。3名は学生であり、一人は宗教的学問をしている学生(神学生)である。彼等の中にはインドに行く途中1988年10月リヤド空港で逮捕されたムフシン マハディ アル・マカミルがいる。彼は逮捕された時17才であった。

アムネスティ・インターナショナルによって「良心の囚人」とみなされる25人の拘留者たち全員は、アル・ダムマンのマバヒト アル・アムマ刑務所に現在収容されていると報告されている。彼等は尋問の前また尋問中は外部との連絡を一切断たれる。年の暮れに彼等は裁判に付されることなく拘留されている。彼等の詳細は付属Aにまとめられている。

OIRAPはイラン革命の4年前1975年に設立された。アヤトラ サイド ムハムマド アル・シラージ(3.1.1参照)のアイデアの影響の下、OIRAPは先ず第一に“大衆の教育と啓蒙”にその活動を絞っている。それは、「サウジアラビアにおけるシーアは差別を受けている」と述べ、平等の権利を与えられるべきであると強調している。その印刷物の中には暴動あるいは武器をとった行動を取るよう呼び掛けているところはない。OIRAPは1987年のイラン巡礼団とメッカにおけるサウジアラビア治安部隊の衝突の後イランが呼び掛けたサウジアラビアに対するジハード(聖戦)を受け入れないままであると報道されている。少なくともOIRAPのメンバーと申し立てられたサ'ウド ハマドとアフマド マハディ カミスは明らかに拷問の結果それぞれ1981年と1986年マバヒト アル・アムマ刑務所において死亡したと報ぜられている。

1979年以来何百というOIRAPのメンバーあるいは支持者とされる者が拘留を延期され、告発されることなく釈放された。多くの場合、彼等はただ彼等が確信をもって保持している信仰を平和的に述べたというだけで拘留されたものとアムネスティ・インターナショナルは信じている。たとえばシーアの指導的学者である

シェイク ハッサン マッキ アル・クワイルディは1988年10月31日、シーアについて説教した後に逮捕され、告発されることもなく裁判にかけられることもなく拘留された。彼は過去に4回告発されることもなく裁判にかけられることもなく拘留され、1回は拘留期間が1年を越したのである。1989年4月半ば、アムネスティ・インターナショナルは彼のためにサウジ当局にアッピールした。何らの返答にも接しなかった：しかしながらシェイク ハッサン アル・クワイルディは4月24日に釈放されたということを後で知ったのである。

3.3 ヒズブラー フィル ヒジャズ (ヒジャズにおける神の党: PGH) のメンバーあるいは支持者とされた者たち

1988年4月報道されたアル・ジュバイルにおける石油化学プラントにおける罷業の後、PGHのメンバーあるいは支持者とされる多くのシーア派の者たちが東部地域、主としてアル・ラッビーヤとサイハトにおいて逮捕された。1988年4～8月の間において40名にのぼる人たちが拘留された。その中4名の者が1988年9月30日に処刑された、これは“安全を脅かし、生命と公的私的財産を危険にする”罷業あるいは“大地を腐敗させる”行為を犯す者たちに死刑を科す布告148号(宗教学者たちであるウラマ長老評議会によって制定された1988年8月24日付け布告148号)の反動的施行かも知れない。1989年前半には20名が釈放された、しかし1989年9月までにこのグループの中の16名が裁判なしで拘留されていた。彼等の中には宗教的学司の学生(神学生)、宗教的学者、学生、技術者を含み、年齢は21才から31才におよんでいた。全員が最初はアル・ダムマンのマバヒト アル・アムマ刑務所に入れられ、それからリヤドのマバヒト アル・アムマ刑務所に移され、現在もそこに収容されていると思われる。数名の者たちは前にも裁判なしに拘留され、その中には1985年に拘留され、1987年大赦により釈放された30才になる宗教的学者シェイク ジャ'ファル アリー アル・ムバラクを含む。彼等は全員逮捕されてから家族の面会を少なくとも2回許された。アムネスティ・インターナショナルは彼等が犯罪を犯したと認められる罪状がなければ釈放されるべきであることを強調してサウジアラビア当局にアッピールしている。

1989年9月、アムネスティ・インターナショナルはPGHのメンバーあるいは支持者と申し立てられたそのほかの者が逮捕されたことを知った。27才のサイド アドナン サイド ムハマド アル・ユスフは1989年7月はじめにアル・イフサーで逮捕され、現在もそこに収容されていると思われる。彼は前にも1982年～83年12月にかけて、また1986～87年の2回にわたって逮捕され、告発されることもなく裁判にかけられることもなく拘留されていた。彼が最後に逮捕される前に彼はダマスカスに亡命して住んでいたが、そのサウジアラビア大使館から身の安全についての保証を受けたので国に帰ったと報告されている。

さらに最近、1989年10月PGHのメンバーおよび支持者とされた3名の者が拘留された。彼等はアル・イフサー出身の48才になる宗教学者であるシェイク イブラヒム アル・バット、サイハト出身サウジ電気会社従業員のフセイン マンスール アッバス、それにアル・クアティーフ出身の宗教学者サイド ヤーシン アル・サイグである。このグループからの拘留者は全員尋問の前また尋問中は一切外部との連絡を断たれる。彼等の詳細は付録Bにまとめられている。

氏名	逮捕の日時と 場所	拘留されている 場所	その他の資料
16. サイド ターヒル アル・シミミ	15. 6. 89 アル・アワミーヤ	アル・ダムмам	結婚 アル・アワミーヤ近くのクダイフ村出身の宗教学者 30才 1986年罪状なく裁判に付されることもなく拘留され、その年末に釈放。1989年7月アムネスティは彼が拷問を受けているという情報により緊急アッピール
17. シェイク アリー アブドル カリーム アル・' アフ	15. 6. 89 アル・アワミーヤ	アル・ダムмам	結婚 アル・アワミーヤ出身の宗教学者 28才 1986年逮捕され、その年末に釈放されるまで告発されることも裁判にかけられることもなく拘留。1989年アムネスティは彼が拷問を受けているという情報に基づき緊急アッピール
18. サイド ザキ サイド マッキ サイド シュバル	15. 6. 89 アル・アワミーヤ	アル・ダムмам	結婚 アル・アワミーヤ出身の文房具店主 1989年7月アムネスティは彼が拷問を受けているという情報により緊急アッピール
19. シェイク シラ シビブ アル・ドゥハイム	15. 6. 89 サファー	アル・ダムмам	結婚 25才 サファー出身の宗教学者 89. 7アムネスティ緊急アッピール
20. ジャ' ファル バケル アル・ニムル	15. 6. 89 アル・アワミーヤ	アル・ダムмам	結婚 30才 アル・アワミーヤ出身の食料品商 ' 89. 7アムネスティ緊急アッピール 8月22日彼の兄弟タイシール逮捕される (No. 24参照)
21. アフマド アリー アブドラ ミセイキス	8. 8. 89 サウジ・クウェー ト国境検問所	アル・ダムмам	独身 アル・アワミーヤ出身 20才 学生 クウェートへの途中逮捕さる
22. アブドル・グアファール アフマド ムハムマド アル・ザヒール	9. 8. 89 アル・ダムмам	アル・ダムмам	結婚 アル・アワミーヤ出身 28才 神学生 アル・ダムмамのマバヒト アル・アムマによって妻のイシュティヤドアル・サイフとともに逮捕され、妻は後に釈放された。

- クァティーフ
- | | | | |
|--|--------------------------------|----------|---|
| 7. ユスフ フセイン
ジャワド アル・リベフ | 23. 3. 89
アル・
ジュ' アイマ | アル・ダムмам | 結婚 26才 サウジ電気会社勤務
アル・' アワミーヤ出身 1982~8
3年告発なし、裁判なしで拘留された |
| 8. アブドル ラザク
マンスール
アル・ファラージュ | 1989. 3月
アル・アワミーヤ | アル・ダムмам | 独身 アル・アワミーヤ出身の神学生
25才 |
| 9. イブラヒム マハディ
アル・サ' アイド | 3. 4. 89
ダーラン空港 | アル・ダムмам | アル・アワミーヤ出身 神学生 23才 |
| 10. アリー サイド
アル・ジシィ | 15. 4. 89ア
ル・クァティーフ | アル・ダムмам | 26才 サウジARAMCO勤務
シリアから帰って2日後に逮捕された。 |
| 11. アブドラー アブドル・
カリム アフマド
アル・ナッセル | 24. 5. 89
アウジャム | アル・ダムмам | 独身 アル・アウジャム出身 22才
学生 |
| 12. ハッサン アリー
アル・ディルラ | 29. 5. 89
セナベス | アル・ダムмам | 結婚 28才 ノルウェー海運会社勤務
1981~83年の2年間 告発されず
裁判なしで拘留 |
| 13. マーリク アル・ズリ | 89年前半
セナベス | アル・ダムмам | 勤務せず
25才 セナベス出身 |
| 14. アダム アリー
アル・ウクァイリ | 14. 6. 89
サウジ・ヨルダン
国境検問所 | アル・ダムмам | 独身 タルート出身 21才 |
| 15. マーリク マッキ
アル・クワイルディ | 15. 6. 89
サファー | アル・ダムмам | 結婚 サファー出身 26才 学生 彼
は1989年4月釈放される前の10年
間に4回罪もなく裁判にもかけられず拘
留された卓越したシーアの宗教的学者シ
ェイク・ハッサン・アル・クワイルディ
の弟。1989年7月緊急アッピール |

4. 結論と勧告

アムネスティ・インターナショナルが長年にわたって集めた情報から判断するに、政治的容疑者を裁判を行うことなく拘留することについては次の結論に達するとともに、サウジアラビアに対して次のような勧告をする：

1. アムネスティ・インターナショナルに知らされた政治的拘留のすべてのケースにおいて、容疑者たちは令状なしに、また逮捕の理由を知らされることなしに逮捕されている。政府は政治的容疑者を逮捕する時には令状を発し、その逮捕の理由とどのような罪状によるものであるか速やかに知らされるべきである。このことはICCPR第9条(2)の条項に適應する。
2. 政治的容疑者たちは尋問の前また尋問の間、長期にわたって独房に入れられるのを常とする。拷問が組織的に行われていると報道されているのはこの期間である。アムネスティ・インターナショナルの見解によれば、長期に独房に閉じ込める習慣は拘留者の基本的人権を擁護することと両立しない。独房に閉じ込めることは拷問あるいは虐待に導く状態を作り出す。政府はこの習慣を止めるべきである。
3. 政治的拘留者たちはマバヒト アル・アムマ(公安部)によって告発されることもなく公判にかけられることもなく無期限に拘留される。彼等は通常法的援護を受けることを拒否され、不正な逮捕あるいは裁判なしに長期間拘留されることに抗議する有効な方法をもたない。すべての拘留者が弁護士、家族そして医療機関に速やかに普通の接触ができるよう法的措置が取られなければならない。すべての拘留者は監禁所に入れられる時にはその合法性また拘留の必要性および拘留者の取扱いを見るために速やかに法的権威者の前に連れてこられるべきである。さらに拘留者が拘留の期間を延長される時には、それに抗議する権利を与えられるよう現在の法を改正するような段取りを講ずべきである。このことはICCPRの第9条および第14条の条項と一致する。政府は非暴力的な政治的意見を述べあるいは行動をとったために拘留されているすべての者を釈放するために、この文書に述べられている66のケースを含めてすべての拘留のケースを検討し直すべきである。
4. 家族は逮捕、拘留の場所、拘留者のその後の動向について公式の知らせを受けず、彼等は彼等自身の努力によってそのような知らせを得なければならない。政府は逮捕された者の氏名を公にし、逮捕の後の拘留者の動静についてその家族および法的顧問が入手できるようにしなければならない。このことは囚人の取扱いのための国連の最低の基準である第37および44(3)条に規定されている基準に達することになる。
5. アムネスティ・インターナショナルの見解によれば、政治的容疑者を裁判することもなく無期限に拘留するという習慣が、政治的容疑者を勝手気儘に逮捕し、彼等を監禁している間に彼等の基本的人権を犯すことになり、それを助けてきたと思われる。政府は直ちにこの習慣を維持することが妥当であり必要であるかどうかを検討すべきであって、このような習慣が犯罪司法制度のための代用品として使われてはならない、そしてそれを保護することを避ける方法として用いられてはならない。

付属 A: ムナダマト アル・サウラ アル・イスラミーヤ フィル ジャチーラ アル・アラビーヤ
 (アラビア半島におけるイスラーム革命団体) のメンバーあるいは支持者とみなされ、
 現在アル・ダムマムに拘留されていると思われる25名の氏名および資料

氏名	逮捕の日時と		拘留されている	その他の資料
	場所			
1. マハディ アフマド アル・サフアニ	11. 7. 88	サファーにおいて	アル・ダムマム	23才 サファー出身 大学生
2. マーリク ハッサン アル・ラーヘン	28. 8. 88	アル・アウジャム	アル・ダムマム	独身: 19才 アル・アウジャム出身の神学生 逮捕の2~3日後3ヶ月間入院、拷問の結果と言われる。さらに2回最近は7月17日ダムマム中央病院に移された。8月アムネスティ・インターナショナルは当局に関心を表明、彼が何故入院させられたか、また彼が受けた治療の詳細を尋ねた。回答はない。彼の現在の健康状態は不明
3. ジャシム アリー アシュル	28. 8. 88	アル・アウジャム	アル・ダムマム	独身 アル・アウジャム出身 24才 神学生
4. ムフシン マハディ アル・マカミル	88年10月	リヤード空港	アル・ダムマム	アル・クァティーフ出身 18才の学生 インドへ行く途中逮捕 逮捕時17才
5. サイド ファドヒル サイド ムハムマド サイド ハシーム アル・サッダ	1989. 1月	リヤード	アル・ダムマム	独身、サファー出身 24才 大学生 1979年11月14才で逮捕され、1年後告発されず裁判されずに釈放。彼の兄ジャミールは1981年12月国家に反対して武装活動したためバーレンで有罪とされ、刑に服するためサウジアラビアに引き渡され、以来リヤードにて拘留中。
6. シェイク ムハムマド アル・マス ウド	15. 3. 89	アル・	アル・ダムマム	結婚している。アル・クァティーフ出身 23才の宗教学者

付属 B: 現在リヤードとアル・イフサ' に拘留されていると考えられる20名の
ヒズブラー フィル ヒジャーズ (ヒジャーズにおけるヒズブラ)
 の会員および支持者とされる者の氏名と資料

氏 名	逮捕の日時と 場所	拘留されている 場所	その他の資料
1. サイード ナジブ マジド サイード アル・ハシム	22. 4. 88 アル・ラッビ' イ ーヤ	リヤード	独身 アル・ラッビ' イーヤ出身 21才 学生
2. ムハマド アル・ジラニ	18. 4. 88 アル・ラビ' イ ーヤ	リヤード	結婚 23才 神学生
3. ムハマド ヒラール クァシム アル・セウド	20. 4. 88 サイハット	リヤード	結婚 サイハト出身 27才 逮捕前サウジARAMCOに勤務
4. ファウジ アブドラ アル・ユスフ	20. 4. 88 サイハト	リヤード	結婚 サイハト出身 32才 サウジA RAMCOの技術者であった。
5. ジャ' ファル ジャシム アル・ハマド	20. 4. 88 サイハト	リヤード	結婚 サイハト出身 26才 学生
6. ムスタファ アリー アル・カタム	20. 4. 88 サイハト	リヤード	結婚 サイハト出身 26才 父親所有の金物店で働いていた。
7. アブドル・カリム ハムド	20. 4. 88 ダーランのサウジ ARAMCOにて 勤務中に逮捕	リヤード	結婚 サイハト出身 28才 技術者 サウジARAMCO勤務
8. シェイク アブドル・カリム アル・フバイル	21. 4. 88 アル・ラビ' イ ーヤ	リヤード	結婚 31才 シーアの世界では著名 な宗教学者
9. シェイク	21. 4. 88	リヤード	結婚 サファー出身 31才 宗教学者

23. アブドル・シャヒード 17. 8. 89 アル・ダムмам 結婚 サイハト出身 25才の店主 数ヶ所の手の骨折と刺すような背の痛みのためダムмам中央病院に移された。拷問の結果であると報道されている。
- アフマド サイハト
- アル・シャフィーイ
24. タイシール バケル 22. 8. 89 アル・ダムмам 独身 アル・アワミーヤ出身 20才の事業家 午前2時に自宅で逮捕 15. 6. 89に逮捕されたジャ' ファル バケル アル・ニムル (No. 20参照) の弟
- アル・ニムル アル・アワミーヤ
25. サイド ジャ' ファル 1. 9. 89 アル・ダムмам 結婚 アル・アウジャム出身 24才 神学生
- サイド ハミド サウジ・ヨルダン
- アル・ハシーム 国境検問所

	ジャ' ファル アリー サファー アル・ムバラク				ヒズブラーの指導者と考えられている。 1985年罪状なく裁判なしに拘留され、 1987年大赦により釈放
10.	アリー ハーリル アル・サイーグ	21. 4. 88	リヤード セナベス		結婚 セナベス出身 31才 サウジA RAMCO勤務であった。
11.	フセイン アブドラー アル・ハイ	21. 4. 88	リヤード サファー		結婚 サファー出身 31才 サウジARAMCO勤務であった。
12.	アリー サ' イド ダルウィシュ	21. 4. 88	リヤード アル・ラビ' ーヤ		結婚 アル・ラッピーヤ出身 30才 技術者 サウジARAMCO勤務であっ た。
13.	ファシ フセイン アル・ハビブ	22. 4. 88	リヤード サファー		結婚 サファー出身 26才 サウジA RAMCO勤務の技術者であった。
14.	ナッセル アブドラー アル・ユスフ	25. 4. 88	リヤード サイハト		結婚 サファー出身 26才 文部省勤務の役人であった。1985年 リヤドのキング・サウド大学の学生時代 に拘留、'86年釈放
15.	シェイク アブドル・ ラティフ フセイン アル・ナセル	17. 8. 88	リヤード アル・ダムмам		結婚 アル・ダムмам出身 27才 宗教学者
16.	シェイク アブドラー ムハムマド アル・ニムル	17. 8. 88	結婚 アル・ダ ムмам出身 3 0才 宗教学者		
17.	サイード アドナン サイード ムハムマド アル・ユスフ	1989. 7月は じめ アル・イスハ-	アル・イスハ		結婚 アル・イスハ出身 27才 1982. 12月および1983年' 8 6~87拘留。最後の逮捕の前ダマスカ スに亡命していたが、そのサウジ大使 館から身の安全を保證されて帰国した。
18.	フセイン マンスール アッバス	5. 10. 89	アル・ダムмам サイハト		結婚 サイハト出身 29才 サウジ電 気会社勤務 1982年数日間拘留

19. サイド ヤーシン 5. 10. 89 アル・ダムмам 結婚 一児の父親 27才 宗教学者
 アル・サイーグ アル・クァティー
 フの自宅にて
20. シェイク イブラヒム 1989年10月 アル・イフサ 結婚 アル・イフサ出身 48才
 アル・バット 最初の週、アル・ 宗教学者
 イフサにおいて

付属 C: 現在アル・ダムмамに拘留されていると思われるヒズブル アマル アル・イシュティラク
 アル・ジャチーラ アル・アラビーヤ (アラビア半島におけるアラブ社会主義者行動党)
 のメンバーあるいは支持者とみなされる5名の者たちの氏名および資料

<u>氏名</u>	<u>逮捕の日時と</u> <u>場所</u>	<u>拘留されている</u> <u>場所</u>	<u>その他の資料</u>
1. アディル サルマン アブドル・ハーディ	25. 3. 89 サファー	アル・ダムмам	結婚 サファー出身 32才 イラク銀行の行員であった。
2. ムハムマド ハビブ アル・ユスフ	25. 3. 89 サファー	アル・ダムмам	結婚 サファー出身 31才 アル・ザミル会社勤務
3. ムハムマド ハッサン ナビー	25. 3. 89 サファー	アル・ダムмам	結婚 サファー出身 26才 サウジARAMCO勤務
4. ハッサン ジャシム ダワード	27. 3. 89 サファー	アル・ダムмам	結婚 28才 サウジARAMCO勤務
5. アブドラー アル・ジャセル	27. 3. 89 リヤード	アル・ダムмам	結婚 サファー出身 39才 サウジARAMCO勤務

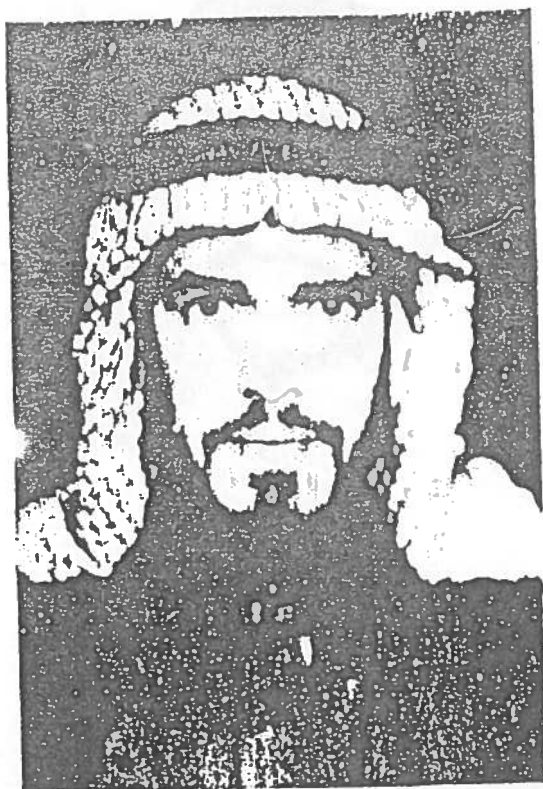
付属 D: :どの団体に属するか不明ではあるが、現在リヤード、アル・ダムмамおよびアル・イフサに拘留されていると思われる16名の政治的反对容疑者たちの氏名および資料

氏名	逮捕された日時と場所	拘留されている場所	その他の資料
1. アブドル・アチズ アル・ファリス	17. 6. 89 リヤードのキング・ ハーリド大学病院 において	リヤード	独身 23才 リヤードのキング・サウド大学の学生 6月15. 16日学生宿舎が焼けた時、シーアのほかの学生たち(No. 2~5参照)と一緒に逮捕された。彼等が放火したと自白させるため拷問にかけているという情報によって、アムネスティは彼等の3名(No. 1~3)のために緊急アッピールをした。
2. アリー アル・ライル	17. 6. 89 上に同じ	リヤード	独身 キング・サウド大学学生 22才
3. サラー ニスファン	19. 6. 89サ ウド大学学生宿舎 において	リヤード	独身 キング・サウド大学学生 20才
4. フセイン スバイト	19. 6. 89 キング・サウド大 学学生宿舎にて	リヤード	独身 キング・サウド大学生 22才
5. ハティム アル・サディーク	19. 6. 89 キング・サウド大 学学生宿舎にて	リヤード	独身 キング・サウド大学生 22才
6. ムハムマド サ' ウド ビン フムダ	10. 7. 89 メッカ	アル・イフサ	結婚 28才 神学生 爆弾騒動が起こった日メッカにおける巡礼中に逮捕。前に1986年逮捕され、1987年告発されることなく釈放された。
7. サ' ウド アフマド アル・シュルフナ	11. 7. 89 アル・クテイー	アル・ダムмам	結婚 22才 神学生

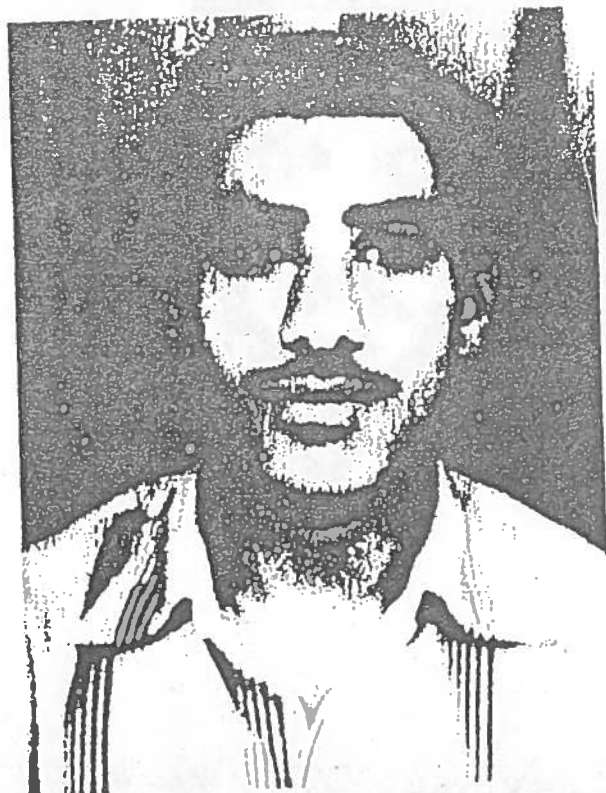
フにおいて

8. ジャシム
アブドル・ラザク
26. 7. 89 アル・ダムмам 結婚 22才 ダーランにおけるキング
・ファイハド大学に奉職
サウジ・ヨルダン
国境検問所にて
9. アブドル・ハミド
アブドラー アバス
1. 8. 89 不明 結婚 29才 マディーナ アル・ムナ
ワラ出身の事業家
マディーナ アル
・ムアワラにて
10. アフマド ハッサン
アル・ムタワ
10. 8. 89 アル・ダムмам 結婚 35才 ダーランにおけるキング
・ファハド大学における講師
アル・イフサ
11. サウド ジャファル
アル・アクアル
21. 8. 89 アル・ダムмам 結婚 20才 ジュバイル出身
交通警察官 職場において逮捕された。
アル・ダムмам
12. アリー アフマド
アル・マアティク
22. 8. 89 アル・ダムмам 独身 21才 学生
タルート
13. ジャラル マンスール
サイド
アル・サッファア
1989年9月 アル・ダムмам 独身 19才 学生 アメリカ・ヒュー
ストン英語学校にて勉学中、サウジアラ
ビアの家族を訪問するため帰国して逮捕
バーレンを結ぶフ
ァハド王橋にて
14. フセイン ニスファン
1989年9月 アル・ダムмам 独身 22才 神学生
ファハド王橋にて
15. タイシル
アル・グラブ
25. 9. 89 アル・ダムмам 独身 22才 学生 兄のファシ(No
. 16参照)とともに逮捕された。
アル・クァティー
フにて
16. ファシ アル・グラブ
25. 9. 89 アル・ダムмам 独身 23才 学生
アル・クァティー
フにおいて

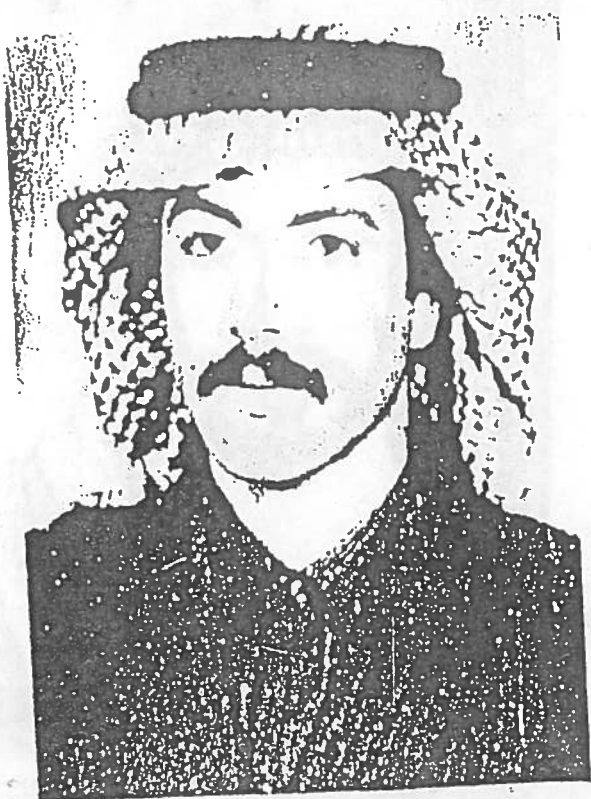
公平なしに拘留されている政治的容疑者たち



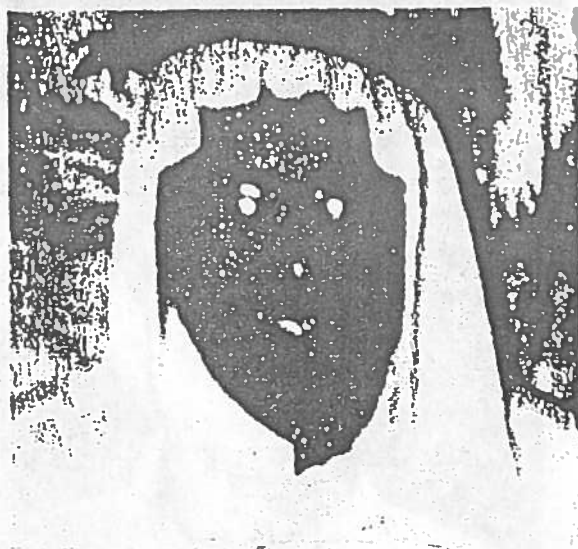
1. シェイク アリー アブドル・カリーム
アル・アウア
生まれた場所: アル・アウアミーヤ
年 齢 : 28



2. イブラヒム マハディ サ'イド
生まれた場所: アル・クアティーフ
年 齢 : 23



3. ジャ'ファール バケル アル・ニマル
生まれた場所: アル・アウアミーヤ
年 齢 : 30



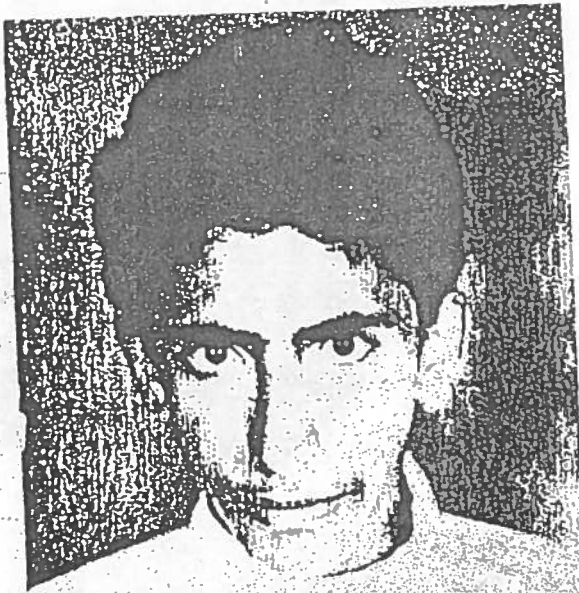
4. ハッサン アリー アル・ディルラ
生まれた場所: セナベス
年 齢 : 30頃



5. ユスフ フセイン ジャワド アル・リベフ
生まれた場所： アル・ジュ' アイマ
年 齢： 26



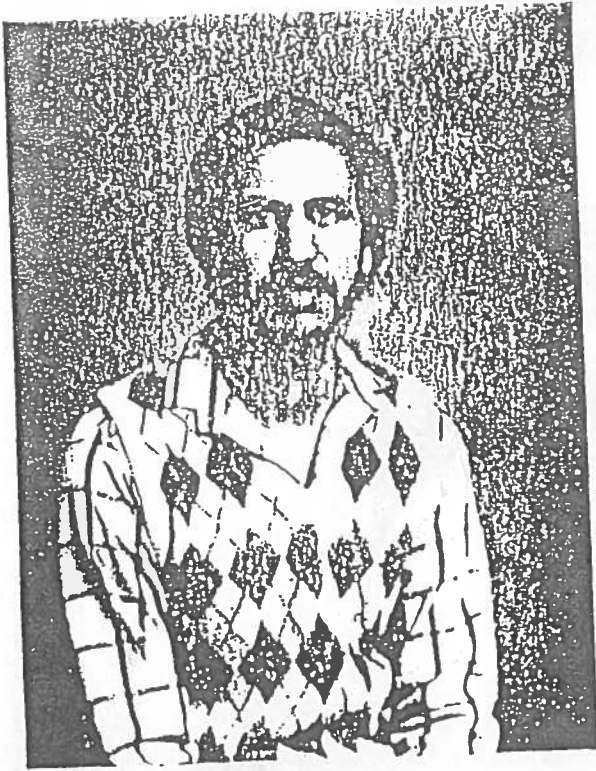
6. 'アリー サ'イド ダルウィシュ
生まれた場所： ラッビ' イーヤ
年 齢： 30



7. 'アリー 'アブドラ' アシュール
生まれた場所： アル・アウシャム
年 齢： 23



8. タヒル シャミミ
生まれた場所： アル・アウァミーヤ
年 齢： 30



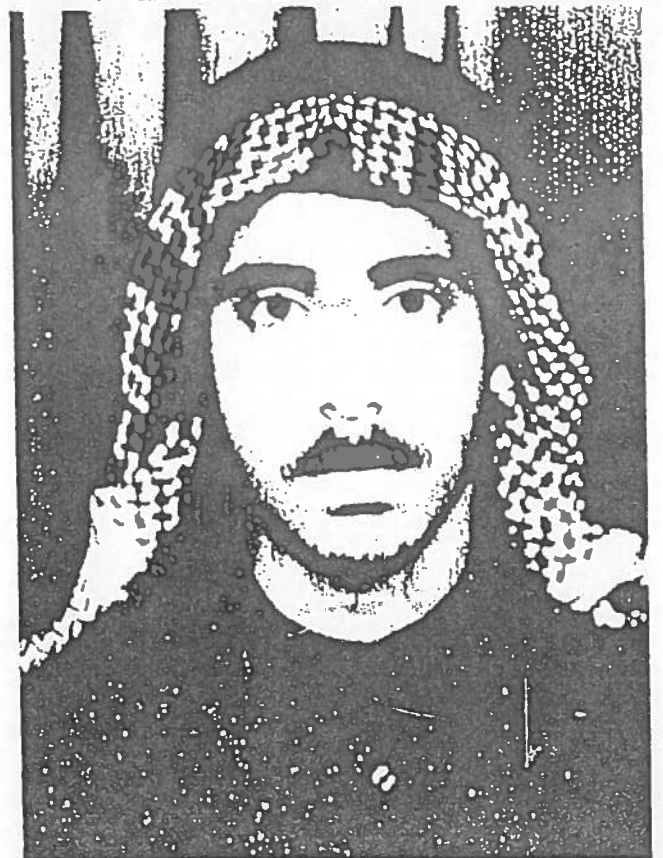
9. ムハマド ヒラール クァシム アル・セウド
生まれた場所： サイハト
年 齢： 27



10. アリー ムハマド フセイン アル・ライル
生まれた場所： サファー
年 齢： 21



11. アダム アリー アル・ウクァイリ
生まれた場所： タルード
年 齢： 21



12. アフマド アリー アブドラ ヒシャイキス
生まれた場所： アル・アウァミーヤ
年 齢： 21



13. タイシル バケル アル・ニムル
生まれた場所： アル・アウァミーヤ
年齢： 20